

何故、菅官房長官の 会見に臨むのか

～問われる安倍政権とメディアの在り方～

●2017 年 10 月 13 日（金）13：00～15：00

●場所 オルタナティブ生活館 301 会議室（新横浜駅徒歩 10 分）

<http://www.culture-act.com/map/oruta.html>

●講師 望月依塑子氏（東京新聞 社会部記者） *参加費無料

7 月の都議選では自民党が大敗し、安倍政権への支持率低下がとまりません。これまで安倍一強体制のもと、日本が軍隊を持ち戦争ができる国とすべく憲法改定に向けて、安保法制、特定秘密保護法の成立、共謀罪等の強行採決を行ってきました。さらに、森友や加計学園疑惑等に対する虚言と隠ぺい、相次ぐ閣僚の問題発言等が続き、現在の凋落ぶりに改めて政権を支えてきたものは何であったのかと考えさせられます。ようやく政局が動く可能性が見えてきましたが、市民レベルの政治への道筋は見えないままです。

「政治は国民を映す鏡」と言われますが、情報媒体であるメディアも含め、この三者は切っても切り離せない関係です。この間の政権に対するメディアの姿勢に、政治に対する監視と透明化を役割とするジャーナリズムの魂を忘れたのかといった海外からの批判も相次ぎました。

今回の理事懇談会は、東京新聞社会部記者として取材を続けている、望月依塑子さんをお呼びして、政治権力に対するジャーナリズムのあり方、またこの間の記者会見での厳しい応酬のやりとりも含めて現政権が抱える悪しき体質や課題等についてお話しいたします。また、今後の政治動向などについても情報をいただき、意見交換をしたいと考えます。

お誘いあわせの上多数ご参加ください。

主催：参加型システム研究所 事務局 林田

Tel.045-222-8720 Fax.045-222-8721

e-mail sanka@systemken.org

参加申込書

* 10 月 10 日までにメール又はFaxでお申し込みください。

参加者名	
所属	